

北信地域の発展方向

中野市・飯山市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村・栄村

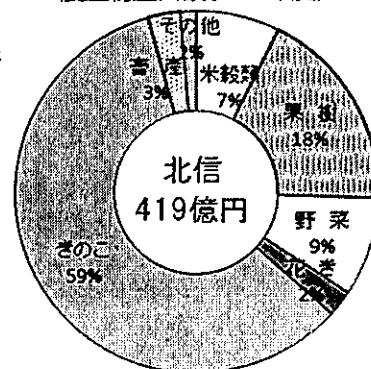
～ 輝く人と恵まれた自然を活かした
心豊かで元気な北信州農業 ～

地域農業・農村の概要

農業・農村の特色

- 北信地域は、千曲川に沿って耕地が分布し、「ふるさと」の原風景が残る恵まれた自然環境の中で、えのきたけ、ぶなしめじ等のきのこ、りんご、ぶどう、もも、プラム等の果樹、アスパラガス等の野菜や良食味米、地域ブランドを活かした畜産、シャクヤク等の花きなど多様な生産品目による農業が展開されています。
- えのきたけ、ぶなしめじ等のきのこは、産出額の約60%を占め、また、果樹は、多品目が生産され、近年は、県オリジナル品種やぶどうの無核種、プラムの生産が増えています。
- 就農構造については、農業を支えてきた世代の高齢化が進行し、担い手が急速に減少しています。一方で、新規就農者の増加や経営規模の拡大、企業の経営を実践する経営体も育ってきています。
- 北信地域の自然や農業体験等を通じ、観光と連携したグリーン・ツーリズム等都市住民との交流が進んでいます。
- 学校給食の地場産利用や農産物直売所の売上増加など地産地消が進んでいます。

農産物産出額(H22年度)



めざす将来ビジョン

- 意欲ある農業者等が経営感覚に優れた企業の経営を行い、自らの経営のみならず地域農業の発展にも貢献し、夢の実現と更なる向上を目指して頑張っています。
また、新規就農者や女性農業者、定年帰農者等多様な担い手が、それぞれの特徴を活かした営農を展開しています。
- 水田農業については、農業法人や集落営農組織等への農地利用集積が進み、良質米産地としてのブランド力が高まり、競争力の高い営農を展開しています。
- 園芸作物については、オリジナル品種等優良品種、新品目・新作型の導入、施設化により消費者ニーズを捉えた高品質な生産が展開されています。
- きのこについては、生産力の拡大等により効率的な経営が行われ、使用済み培地の再生利用や飼料化・堆肥化等による活用が進み、循環型農業が展開されています。
- 北陸新幹線の延伸を契機に農産物直売所や農家民宿、観光農園等と観光事業者の連携したグリーン・ツーリズムが発展し、食、健康、体験、ふるさと回帰をキーワードに、地域外から多くの人々が訪れ、地域住民と一体となって農村の良さが伝えられています。
- 北信地域で生産される農畜産物は、家庭はもちろん地域内のレストランやホテルで利用され、地産地消が進んでいます。また、農商工連携による農畜産物の利用の開発が進んでいます。
- 地域農業を支える農業用水が確保され、災害に強い安全な農村づくりが展開されています。



重点的な取組方向

重点戦略1 経営感覚に優れた元気な担い手の育成

地域農業を支えてきた農業者の高齢化が著しく、農業従事者の大幅な減少が予想される中で担い手不足により農業生産力の低下が懸念されています。特に後継者が決まっていない高齢農家が多く、新規就農者や女性農業者、定年帰農者等多様な担い手の育成が求められています。

また、中山間地域等の担い手がない地域では、地域農業を担う新たな集落営農組織の育成も必要となっています。

<達成指標>

- 40歳未満の新規就農者数（単年度）
- 認定農業者数
- 集落営農組織数

現状 (H22)
13人
900人
22組織



目標 (H29)
31人
1,000人
28組織

<推進方策>

- 関係機関の連携による担い手の支援体制の強化
- 新規就農者、女性農業者、定年帰農者等多様な担い手の育成
- 青年農業者の育成講座「北信州農業道場」の企画・運営
- 青年農業者、女性農業者組織の育成・支援
- 集落営農組織の育成・支援



【北信州農業道場】

重点戦略2 人と環境にやさしい農業の推進

消費者の食の安全・安心に対する関心が一層高まっていることから、自然環境に対する意識の啓発や環境にやさしい農業の取組が求められています。また、中山間地域等では、野生鳥獣による農業被害が増大し、年々深刻化しており、その対策が急務となっています。

<達成指標>

- 信州の環境にやさしい農産物認証取得面積
- 環境保全型農業直接支援対策実施面積
- GAP手法を活用している農家グループ数
- 侵入防止柵の設置延長

現状 (H22)
273ha
5ha (H23)
10グループ
22.7km



目標 (H29)
530ha
30ha
20グループ
100km

<推進方策>

- 信州の環境にやさしい農産物認証制度の周知と認定取得へ誘導
- 環境保全型農業直接支援対策実施集落の支援
- 消費者から信頼される農業を目指したGAPの導入推進
- きのこ使用済み培地の再生利用や飼料化、耕畜連携による堆肥活用等の促進
- 関係機関・団体等と連携した野生鳥獣に負けない集落づくり（個数調整、集落ぐるみの環境整備、侵入防止柵の設置）の推進



【電気柵の設置】

重点戦略3 地域資源を活かした個性輝く産地の育成

気候、風土、進取に富んだ気質等地域資源を活かしてきのこや果樹、野菜等の生産が行われ、県内有数の産地として発展してきました。しかし、他県産地の台頭や輸入農産物の増大等による市場競争が激化し、販売価格の低迷により農業者の経営環境は厳しさが増しています。

特にライフスタイルの変化等により農畜産物に求める品質・味・値段等の価値は多様化しており、消費者の需要を把握したマーケットインの生産が求められています。このため、需要の高い県オリジナル品種等優良品種及び地域有望品目の生産拡大や一層の高品質化が必要です。

<達成指標>

- 原産地呼称管理制度認定米面積
- りんご3兄弟の栽培面積
- ぶどうナガノパープル・シャインマスカット等無核品種の面積
- プラムの栽培面積
- アスパラガスの新植、改植面積
- きのこの複合経営農家数

現状 (H22)

7.7ha
134ha
45ha

56ha
15ha
237戸



目標 (H29)

45ha
162ha
80ha

73ha
116ha
260戸

<推進方策>

- 消費者ニーズを捉えた高品質な農畜産物を生産するため、県オリジナル品種や地域優良品目の導入及びこだわりを持った生産等によるブランド力の向上
- 売れる米づくりに向け、高温障害対策等の栽培技術の励行や新品種の導入による品質食味を重視した米づくり
- ぶどうやアスパラガス、シャクヤク等北信州の特徴ある農産物の高品質安定生産と長期出荷体制を強化するための施設化の推進
- アスパラガスの病害防除対策の推進に向け、モデル実証ほを活用した新技術の早期普及
- きのこの需要減少期に対応した経営複合化の推進
- 高病原性鳥インフルエンザ及び口蹄疫の蔓延防止のための防疫体制の強化
- JA・市町村と連携した放射性物質に係る農畜産物のサンプル検査による消費者の放射性物質に対する不安の解消
- 食品産業との契約取引による新たな販路の開拓
- 6次産業化等による新たな需要拡大の推進支援
- 伝統野菜等の個性ある野菜栽培の支援



【果樹講習会】

重点戦略4 安全で住み良い農村づくり

地質的に脆弱で、災害を受けやすい地域が多く、長野県北部の地震では甚大な被害が発生し、地震災害等に対する危機管理意識が高まっています。

また、人口の減少、高齢化、農業者の減少等によりコミュニティの維持、農地や農業水利施設等の保安全管理が困難となりつつある地域も見られます。特に築造から年月が経過した農業水利施設も多数あり、早急な再整備が求められています。

<達成指標>

- 地すべり対策工事による土砂災害未然防止面積
- 基幹水利施設の機能診断・保全計画策定済延長
- 地域ぐるみで取り組む農地・水・環境保全活動面積

現状 (H22)
929ha
14km
2,512ha

目標 (H29)
960ha
60km
2,700ha

<推進方策>

- 農業・農村の多面的機能の維持や農村コミュニティの活性化に向けた、地域ぐるみの協働活動への支援
- 地すべり防止対策や中山間地域の農業用水路やため池の保全対策の推進
- 農業水利施設の計画的な更新と長寿命化対策の推進
- 耕作放棄地の再生に向けた地域ぐるみによる特色ある地域振興作物の作付推進



【地域住民による協働作業】

重点戦略5 地域食文化の伝承と農作業体験等の都市農村交流の推進

恵まれた農村景観や観光資源を活かした体験型グリーン・ツーリズムの先進地であり、都市住民との交流が進んでいます。特に北陸新幹線が平成27年3月には金沢まで延伸され、交流人口の増加や観光と連携した農業振興が期待されています。

<達成指標>

- 都市農村交流人口
- 農産物直売所の販売額
- おいしい信州ふード（風土）SHOP

現状 (H22)
31,637人
10億円
0店

目標 (H29)
37,000人
14億円
50店

<推進方策>

- インターネットやマップを活かした、「おいしい信州ふード（風土）」など地元ならではの食の積極的な情報発信
- 食、健康、体験、ふるさと回帰をキーワードに、観光と連携したグリーン・ツーリズム等都市交流を支援
- 女性の技を活かして、次世代・消費者へ郷土の味の伝承と地元農産物の利活用拡大
- 学校給食への地元産農産物の供給の推進
- 観光事業者と連携した地元農産物の利用促進
- 農産物直売所及び観光農園の資質向上に向けた活動支援



【郷土食体験】